



the most beautiful villages in japan

飯豊町
山形県

飯豊町「まち・ひと・しごと創生総合戦略」全体像

(平成27年度～平成31年度)

「種をまこう。日本で最も美しい村の未来へ。」

5つの種

数値目標

具体的な施策

2060年
5,000人

国立社会保障・人口問題研究所推計では、当町の平成72(2060)年の人口は3,343人となり、平成22(2010)年比、およそ6割程度の減少となります。人口減少に歯止めをかけるための対策を行い、減少を4割程度に留め、平成72(2060)年には5,000人程度の人口を維持することを目指します。この場合、高齢化率は29.5%程度に抑えられる想定です。

幹プロジェクト

- 「山形大学蓄電デバイス開発研究センター飯豊拠点」
- 「飯豊・農の未来事業」
- 「町営学習教室いいで希望塾」
- 食育・地産地消の推進
- 高円寺純情コミュニティショップ & カフェIIDE

計12事業

枝プロジェクト

- 農都交流事業
- 自然・文化と最先端科学技術が融合するまちづくり

計17事業

01 人をはぐむ種

「飯豊町総合計画」の基本理念は「住民主体のまちづくり」。主役は「人」です。将来を担う子どもたちに、目標に向けてチャレンジする姿勢や情熱を注ぐ力、学ぶ習慣や学が意志を身につける取り組みを行います。一人ひとりがまちづくりに関わることができる環境を整備し、人材を育成する「人をはぐむ種」をまきます。

-

02 世代をつなぐ種

健やかな子を育てるためには、安心して産み育てる環境の整備と、家族や地域の見守りが必要となります。地域の担い手になる子どもたちと親世代や祖父母世代が世代間交流を図りながら地域の暮らしや食文化を継承し、次代へとバトンを渡すために「世代をつなぐ種」をまきます。

合計特殊出生率
1.91(H31年度)
保育施設待機児童数
0人(H31年度まで)

03 縁をつむぐ種

全国的な「田園回帰」の流れの中、当町への人の流れを構築するために、最も重要なことは「縁」を大切にすることです。U・Iターン希望者や飯豊町を訪れた方との縁を大切に、観光と交流を振興します。また、情報発信体制を整備し、移住と定住、観光と交流の「縁をつむぐ種」をまきます。

観光入込客数
4,660千人(5か年累計)
純移動数
54人(H31年度)

04 郷土をたがやす種

持続可能な郷土を創るために、最も重要なことは「地域力」。農業の未来を切り拓く農業改革を実施。エネルギーと食、住の地産地消を進め、地域自給と圏内流通、安全で安心の農と食による循環型社会の構築し、地域を基礎とした持続可能な農業と農山村の地域づくりのために、「郷土をたがやす種」をまきます。

学校給食地産地消率
40%以上(H31年度)
新規就農者数
50人(5か年累計)

05 可能性をひらく種

農山村が経済的自立をするために最も重要なことは、農山村が持つ新しい価値や魅力、可能性を見出すこと、自然と社会と科学の両立を可能にする「技術革新」。これにより、企業が成長し、新しい産業が生まれ、雇用が創出され、地域が活性化します。農山村が経済的自立をするために「可能性をひらく種」をまきます。

リチウム電池開発研究
プロジェクト参画企業数
50社(H31年度)

教育環境の充実及び確かな学力を持ち、地域を担う子どもの育成
住民や各種団体等と行政の連携による住民、そして若者と女性参加のまちづくり
子どもたちが地域を良く知り、地域への愛着を醸成する取り組みの推進
芸術文化活動を推進し、音楽を中心とする生活に根ざした文化の醸成
地域づくりの拠点としての地区公民館の役割の明確化

結婚、出産、子育て環境の充実
健康づくりの推進及び地域福祉や医療の確保
健康づくり活動を通じた介護予防、介護サービス

移住定住、転入環境の整備
地域資源等を活かした観光と交流の推進
情報発信強化による当町への人の還流創出

「飯豊・農の未来事業」に基づく、農業改革(セブンプラン)を実施
地産地消による持続可能な循環型社会の構築
豊かな自然環境と地域資源の有効活用及び維持保全
新規就農者の支援体制確立
地場産業の深化によるブランド力の強化
安心で快適な生活環境の提供

自然・文化と最先端科学技術が融合するまちづくり
首都圏拠点における農産物の販路拡大、地域資源の活用及び町内経済の底上げ
基幹産業強化等による町内経済の活性化及び雇用創出